1Tp-16(P)

高齢者と装い

－ファッションコーディネートを通して－

目的　加齢現象を衰退の過程であるとして消極的にとらえる考え方もあるが、逆に、加齢化に伴う変化をうまく利用することにより新たな生きがいを日常生活の中に見いだすことも可能であろう。本研究においては、このことを「衣服を装う」という観点からとりあげ、追究した。衣服には、物理的機能の他に、自己表現を行うという精神的機能が大きな割合を占めると考えられる。そこで、高齢者がこれまでの長い自分自身の人生経験と価値観に基づいた、「自分らしい」納得の行く装いを自ら工夫し実践することにより、生活の中に新たな楽しみを見いだすことができると考えるのである。

方法　特別養護老人ホームの入所者で、同室にて生活する女性について、ファッションコーディネートの援助を行い、変化の様子を観察した。其の際、ＴＰＯを考慮することにも重点を置いた。また、施設入所者を対象としたのは、老人ホームにおいて行われる生活訓練は、各自のこれまでの生活習慣を維持することを目的として行われるが、その中で衣生活に関する部分が大きな役割を担っているためである。また、日常的に集団生活を行っているため、他者からの影響を授受する際の波及効果も大きいためである。

結果　自分にとって最も身近な衣服というものに対する意識が徐々に変化し、自ら工夫することの楽しみを見いだすようになった。また、同室の者同士のコミュニケーションも活発になり、外の社会への興味・関心が高まった。一方、衣服を通して自分自身の人生を振り返り、懐かしむ等のきっかけともなり、それまで物理的機能のみに重点が置かれていた衣服が、精神的機能を持つようになった。